

第11回IEEJエネルギーセミナー 「シリーズ石炭を考える会（第3回開催） ～石炭は21世紀の主役となりうるか～」 平成20年2月4日開催

「石炭関連平成20年度予算概要及び

JBICアジア・環境ファシリティについて」

経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石炭課長 谷 明人氏
国際協力銀行金融業務部企画課課長代理 中島 裕行氏

「最近の石炭需給状況と価格の動向」

(財)日本エネルギー経済研究所 戦略・産業ユニット石炭グループ
研究主幹 佐川 篤男

「京都メカニズムをはじめとする

排出権の概要と最近の動向」

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
京都メカニズム事業推進部長 中島 英史氏

「地球温暖化とエネルギー」

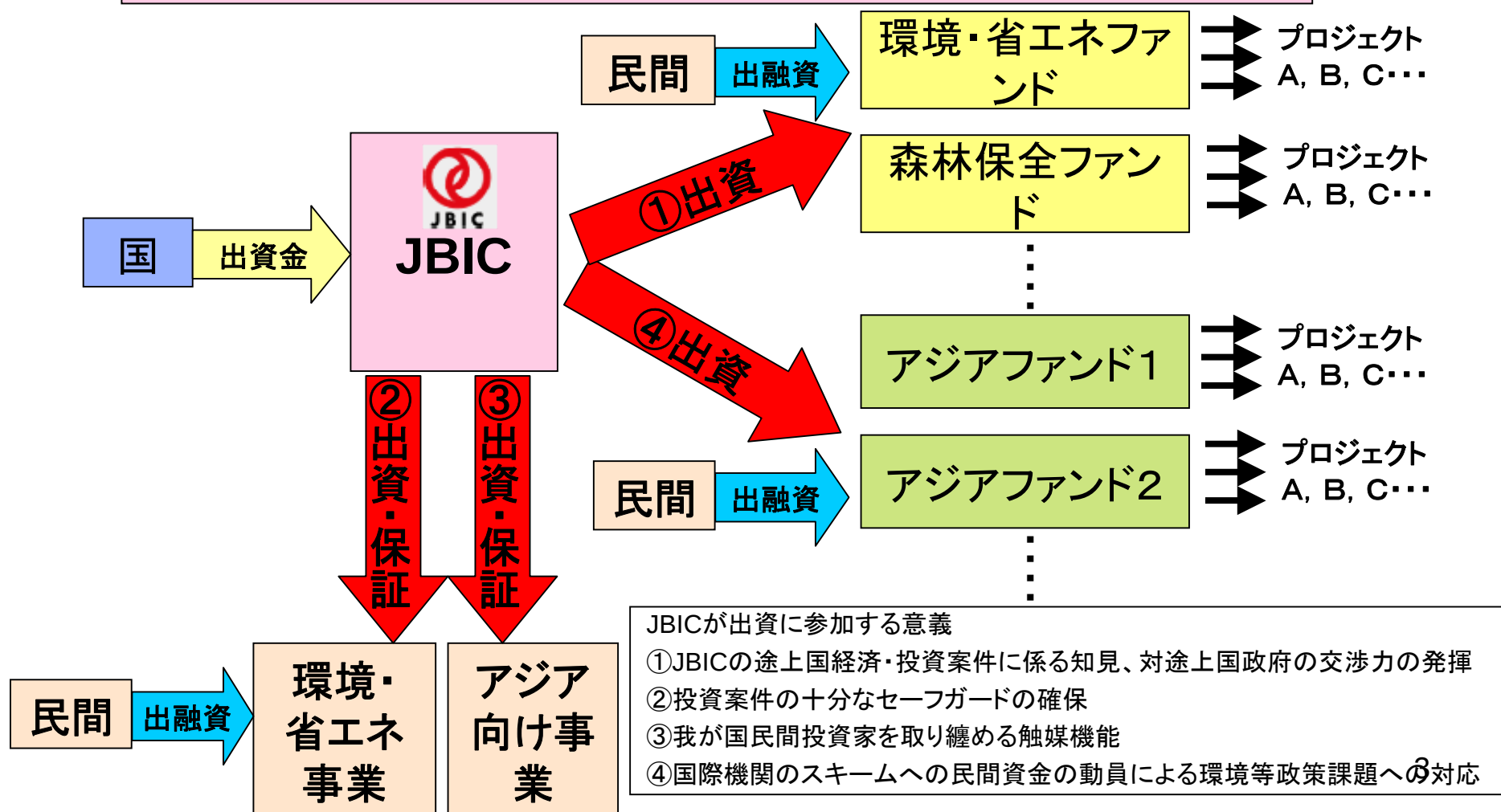
経済産業省大臣官房審議官 本部 和彦氏

『JBICアジア・環境ファシリティ』 創設について

平成20年2月
国際協力銀行

JBICアジア・環境ファシリティのスキーム例

- ①気候変動緩和対策への支援(環境関連ファンドへの出資)
- ②気候変動緩和対策への支援(環境関連事業への出資、保証)
- ③アジア向け案件への支援(インフラ事業、エネルギー事業等への出資、保証)
- ④アジア向け案件への支援(アジア向けファンドへの出資)



「JBICアジア・環境ファシリティ」のコンセプト

○目的

⇒ JBICの出資及び保証機能を積極的に活用し、民間資金を最大限動員。

⇒ 洞爺湖サミットに向けて、我が国にとって政策的に重要な分野である、気候変動緩和対策に資する案件（省エネ・新エネ・森林保全等）及びアジア向け案件（インフラ整備、エネルギー事業等）を積極的に支援。

○実施期間

⇒ 20年度～24年度

○実施規模

⇒ 5年間で数千億円（本行分＋民間資金分）

○財源措置

⇒ かかる支援に伴うリスクテイクに対応するための財務基盤強化として、平成20年度予算において、財政投融资特別会計（投資勘定）から200億円の出資金を受け入れる予定。

（注）ファシリティとは、新たな勘定や基金を設けるものではなく、出資・保証等の事業管理上の整理。